

坂月川親子自然教室（全6回）

2019～

講座開催のねらい 坂月川は若松公民館に程近い多様な生物の宝庫である。20年にわたって川の美化活動や坂月川ビオトープの保全活動を行っている坂月川愛好会と連携を図り、親子で動植物と触れ合う機会を提供することで、自然のすばらしさや環境保護に対する知見を深め、地域への愛着を持たせることが本講座のねらいである。

①2021年度当初計画（4月）

夏休みに開催する観察会（4回）の前後に公民館で事前勉強会（6/20）と、研究発表会（8/21）を実施。野外での観察会を主とする講座は、コロナ禍においても実現可能と考え、近隣の4つの小中学校に参加者募集のチラシを配布する。

②新型コロナウイルス感染者の増加（7月上旬）

本講座の参加者層である小学生と保護者世代の感染者が大幅に増加する事態を受け、公民館と講師で協議の上、8月以降の観察会（2回）を中止することを決定する。

【愛好会の声】●Zoomを活用したことで、活動の範囲が広がりそう。（70代）●一般的にみて、海外の主要国に比べると、日本の地方公共団体はこの手のデジタル技術の利用が遅れているの

③Zoomを活用した講座の開催を提案（7月下旬）

観察会は2回開催でき、参加者が各家庭で研究を進めていたため、中止を検討していた発表会をオンラインでできないか、公民館から講師に提案する。

④決定～準備（8月上旬）

講師から了解を得て、参加者一人一人にZoomを使った講座の開催を考えていることを伝える。参加者の半数以上が塾などで使用した経験があり、前向きな返事をもらうことができた。手探りながらも、Zoom経験者の館職員を中心に、未経験の講師と打ち合わせや練習を重ねる。

で子供にとっても大変良い試みだったと思う。（70代）●思ってもみない体験をこの年になってできて楽しかった。（60代）●小学生たちの生き生きとした笑顔に会えることが（私にとって）推進力になりました。（70代）●愛好会の一員としてもっと成長しなければいけないことを自覚しました。（20代）

成果と今後の課題 本講座は2019年度から実施し、今年で3回目の開催である。10組25人の小学生と保護者が参加し、約半数がリピーターであることから継続的な学びに結びついていることに手ごたえを感じる。当初は坂月川愛好会の経験や知識を若い世代に普及することを目的としたが、愛好会にとっては、子どもたちの成長が生きがいとなり、また今年度はオンライン講座を取り入れることで、新たな分野への挑戦の場を創出できた。オンライン講座においては、会場参加者と自宅参加者を同時に気遣わなければならない点に難しさを感じる場面もあったが、参加方法について選択肢が増えることで、会場に足を運べない方々が参加する機会を得るという新たな気づきがあった。今後も愛好会の活動を支援するとともに、次世代への継承、リーダー育成を意識した講座の開催を継続していきたい。

学習の成果を地域に還元

館内に坂月川情報コーナーを開設。子どもたちの作品を見て、公民館利用者の会話ははずんでいる。

写真：トンボ調査に参加したS君（掲載承諾済）
捕まえたトンボは、体長等を記録した後、リリースを行った。

研究発表会（8/21）



▲2組の親子が来館し、スクリーン越しに自宅から参加している親子や愛好会会員と交流した。



▲自宅からの発表者。成果物を見せながら発表する姿に大人たちも驚いた。

【参加者の声】●友達の前で自分の自由研究の成果を発表したことがうれしかった。（1年）●ちゃんと発表できたかどうか不安だけれど楽しかった。（4年）●親子共々新しい発見があって楽しかったです。（母）●このような状況下で臨機応変に講座を開催してくださったことに感謝しています。（母）